

【防災メモ】

～東日本大震災から10年～

今年の3月11日で東日本大震災から10年が経ちます。平成23年（2011年）3月11日14時46分に三陸沖で、地震の規模（マグニチュード）が9.0である国内観測史上最大の超巨大地震が発生しました。宮城県栗原市で震度7を観測したほか、北海道から九州までの広い範囲で震度6強～1の揺れを観測しました（図1）。気象庁は、この地震の名称を「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と決めました。

この地震により発生した津波は日本沿岸各地で観測され（図2）、甚大な被害をもたらしました。犠牲者は19,729名（令和2年3月10日現在、総務省消防庁による）、死因のほとんどが津波に巻き込まれたことによる水死で、戦後最大の自然災害となりました。

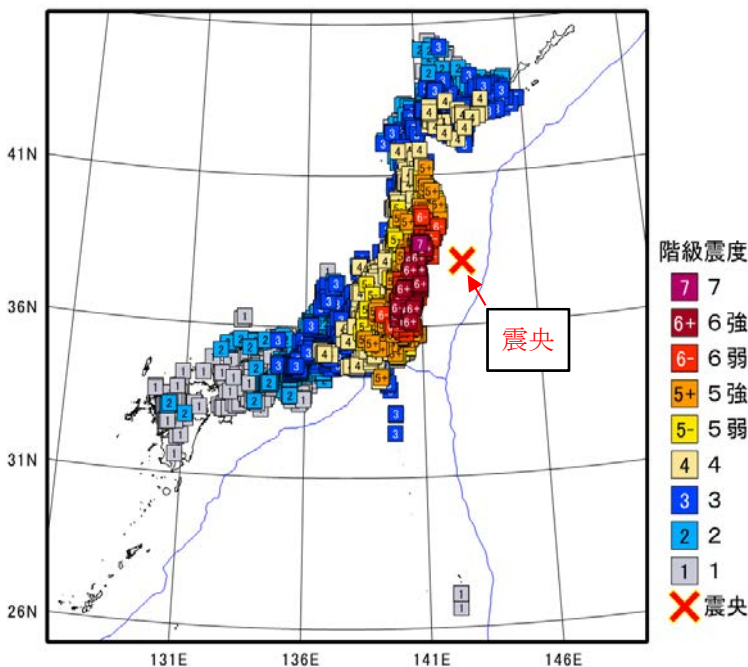


図1 震度分布図

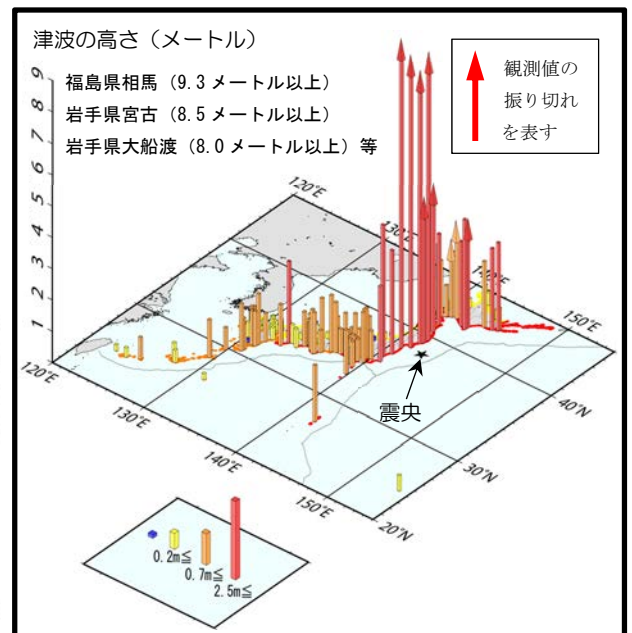


図2 日本沿岸で観測された津波の高さ

マグニチュード8を超えるような巨大地震に対しては、すぐには精度の良い地震の規模を求めることができません。このため、大津波警報や津波警報の第一報では、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表することで、非常事態であることをお知らせし、津波からの迅速な避難を呼びかけます（図3）。

津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲う恐れがあります。ただちにできる限り高いところへ避難しましょう。

種類	発表される津波の高さ	
	数値で発表する場合	巨大地震の場合
大津波警報	10m超	巨大
	10m	
	5m	
津波警報	3m	高い
津波注意報	1m	(表記しない)

図3 大津波警報・津波警報・津波注意報と予想される津波の高さ